

令和2年度
漁業担い手満足度調査報告書

令和3年 12月
岩手県農林水産部水産振興課

目 次

I 調査の概要	1
II 調査結果	3
III まとめ	8
参考資料	9

I 調査の概要

1 調査の目的

本県における「なりわい」としての漁業の魅力について、漁業者の満足度を指標として定量化するとともに、満足度に影響を与える要因を分析し、就業環境の改善などの漁業担い手対策の参考とするもの。

2 調査設計

- (1) 調査対象
- ①岩手県漁業士^{*}（令和2年8月25日現在の名簿登載者）
83名（青年漁業士19名、指導漁業士64名）
※地域漁業の中核的な役割を担う者として知事の認定を受けた者
 - ②若手漁業者（沿海地区漁協に所属する着業10年未満の漁業者）
72名（24漁協×各3名）
- (2) 調査方法 設問票によるアンケート調査
- (3) 調査時期 令和2年8～9月

3 調査項目

- (1) 総合満足度 現状についての総合的な満足度（表1）
- (2) 個別満足度 満足度に関係する可能性のある30項目についての満足度（表2）

4 有効回答数

- (1) 岩手県漁業士 46名（青年漁業士10名、指導漁業士36名） 回収率55.4%
- (2) 若手漁業者 47名 回収率65.3%

5 報告書の記載上の留意点

- (1) 総合満足度は、「非常に不満」、「不満」、「やや不満」、「ふつう」、「やや満足」、「満足」、「非常に満足」の7段階評価とし、それぞれ「-3点」から「3点」までの1点刻みで数値化して分析した。
- (2) 個別満足度は、項目ごとに、「そう思う」、「まあ思う」、「あまりそう思わない」、「そう思わない」の4段階で評価し、それぞれ「1点」から「4点」までの1点刻みで数値化して分析した。
- (3) 総合満足度は次の式で算定した。

$$\text{総合満足度 (平均点)} = \frac{(\text{'非常に満足'} \times 3点) + (\text{'満足'} \times 2点) + (\text{'やや満足'} \times 1点) + (\text{'ふつう'} \times 0点) + (\text{'やや不満'} \times (-1点)) + (\text{'不満'} \times (-2点)) + (\text{'非常に不満'} \times (-3点))}{(\text{回答者数})}$$

※総合満足度は、-3.00点～3.00点の値で、高いほど満足度が高いことを表す。

- (4) 総合満足度の要因分析は、総合満足度と個別満足度の相関係数により評価した。
- (5) グラフ中の「n」は、各項目の回答者数を表す。
- (6) 構成比については、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、数値の合計が100%にならない場合がある。

表 1 総合満足度の設問構成

設問	評価基準
あなたは、総合的に考えて、現在の漁業の仕事や環境にどの程度満足していますか。	7段階評価 ①非常に満足 ②満足 ③やや満足 ④ふつう ⑤やや不満 ⑥不満 ⑦非常に不満

※ 集計において、3点(非常に満足)～-3点(非常に不満)で採点し、平均点を算出した。

表 2 個別満足度の設問構成

要因区分	項目	設問	評価基準
仕事	(1) やりがい	漁業にやりがいを感じている。	4段階評価 ①そう思う ②まあそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない
	(2) 将来への希望	漁業者としての自分の将来に希望を感じている。	
	(3) 責任感	水産物の食料供給を担う責任ある仕事だと思う。	
	(4) 能力の活用	自分の能力が活かせる仕事だと思う。	
	(5) 生産物への誇り	自分の生産物や地域のブランドに誇りをもっている。	
	(6) 継続意欲	体力と意欲が続く限り働き続けられる仕事だと思う。	
自己の成長	(7) 成長期待	仕事を通じて人として成長できると思う。	同上
	(8) 自己啓発	自身の能力向上(試験研究、研修、講習会等)の機会に恵まれていると思う。	
経営目標	(9) 経営目標	自分には明確な経営目標がある。	同上
	(10) 経営規模拡大	現在の漁業経営の規模を拡大したい。	
	(11) 共同生産への興味	他の漁業者等との共同生産に興味がある。	
	(12) 後継者	後継者、又は後継者として見込んでいる者がいる。	
他の漁業者との関係	(13) 尊敬できる漁業者	地域に尊敬できる漁業者がいる。	同上
	(14) 漁業者間の信頼	必要ときに他の漁業者に相談できる環境にある。	
	(15) 漁業就業者支援	地域には、漁家子弟や未経験者の漁業就業を支援する環境が整っていると思う。	
地域住民や消費者との関係	(16) 地域とのつながり	近隣住民とのつきあいが多く、地域とのつながりが深い。	同上
	(17) 消費者とのつながり	消費者と対話する機会を積極的に確保している。	
漁協との関係	(18) 漁協への帰属意識	所属する漁協の組合運営や経営方針、取組等(「地域再生営漁計画」等)に理解を示している。	同上
	(19) 漁業秩序の維持	地域の漁業者はルールを守って操業している。	
	(20) 漁業権行使	十分な漁業権の行使機会に恵まれている。	
	(21) 漁協への信頼	必要ときに漁協に相談できる環境にあると思う。	
	(22) 役割の発揮	地域には年齢、経験、性別に応じて、それぞれの役割を発揮できる漁業生産環境が整っている。	
	(23) 仕事量・労働時間	現在の自分の仕事量や労働時間・休暇のバランスは、適当な水準だと思う。	
労働条件	(24) 労働力	漁業生産のために十分な労働力が確保できている。	同上
	(25) 設備・機器	漁業生産のために十分な設備・機器が整っている。	
	(26) 漁場環境	漁場の生産環境は良好である。	
	(27) 単価水準	生産物の単価は適当な水準だと思う。	
収入	(28) 評価基準	生産物の評価基準や評価体系は明確だと思う。	同上
	(29) 収入水準	現在の自分の収入は適当な水準だと思う。	
	(30) 努力の反映	自分の努力は収入に適切に反映されていると思う。	

Ⅱ 調査結果

1 回答者の属性

区分別	漁業士 (A)		若手漁業者 (B)		全体 (A+B)	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
青年漁業士	10	21.7%	0	0.0%	10	10.8%
指導漁業士	36	78.3%	0	0.0%	36	38.7%
若手漁業者	0	0.0%	47	100.0%	47	50.5%
合計	46	100.0%	47	100.0%	93	100.0%

性別	漁業士 (A)		若手漁業者 (B)		全体 (A+B)	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
男性	43	93.5%	45	95.7%	88	94.6%
女性	3	6.5%	2	4.3%	5	5.4%
合計	46	100.0%	47	100.0%	93	100.0%

年代別	漁業士 (A)		若手漁業者 (B)		全体 (A+B)	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
20代 (20～29歳)	0	0.0%	18	38.3%	18	19.4%
30代 (30～39歳)	3	6.5%	18	38.3%	21	22.6%
40代 (40～49歳)	12	26.1%	8	17.0%	20	21.5%
50代 (50～59歳)	17	37.0%	1	2.1%	18	19.4%
60代 (60～66歳)	13	28.3%	1	2.1%	14	15.1%
未回答	1	2.2%	1	2.1%	2	2.2%
合計	46	100.0%	47	100.0%	93	100.0%

漁業種別	漁業士 (A)		若手漁業者 (B)		全体 (A+B)	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
漁船漁業	2	4.3%	12	25.5%	14	15.1%
養殖業	30	65.2%	20	42.6%	50	53.8%
採介藻漁業	11	23.9%	15	31.9%	26	28.0%
その他・未回答	3	6.5%	0	0.0%	3	3.2%
合計	46	100.0%	47	100.0%	93	100.0%

地区別	漁業士 (A)		若手漁業者 (B)		全体 (A+B)	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
県北	16	34.8%	14	29.8%	30	32.3%
宮古	8	17.4%	17	36.2%	25	26.9%
釜石	4	8.7%	3	6.4%	7	7.5%
大船渡	18	39.1%	13	27.7%	31	33.3%
合計	46	100.0%	47	100.0%	93	100.0%

年収階層別	漁業士 (A)		若手漁業者 (B)		全体 (A+B)	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
200万円未満	4	8.7%	15	31.9%	19	20.4%
200～400万円	5	10.9%	21	44.7%	26	28.0%
400～600万円	9	19.6%	4	8.5%	13	14.0%
600～800万円	6	13.0%	1	2.1%	7	7.5%
800～1,000万円	5	10.9%	0	0.0%	5	5.4%
1,000万円以上	17	37.0%	6	12.8%	23	24.7%
合計	46	100.0%	47	100.0%	93	100.0%

2 総合満足度の分析

(1) 総合満足度の推移

今回の調査では、総合満足度の平均は 0.54 点となり、平成 27 年度の調査開始以降、最低値となりました（図 1）。

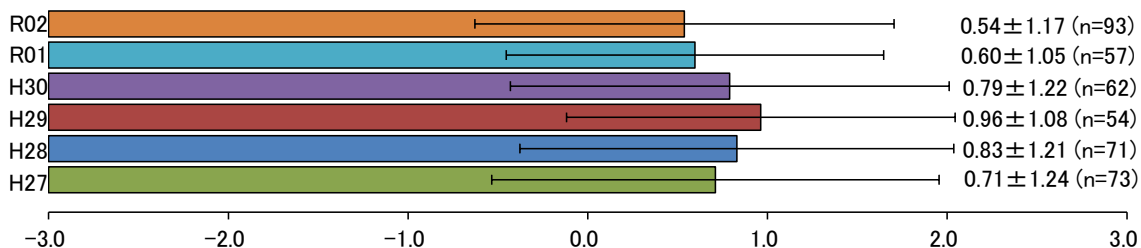


図 1 回答者全体の総合満足度の推移 (図中の数値は平均±標準偏差、nは有効回答者数を表す。)

(2) 漁業種別の総合満足度

今回の調査における漁業種別の総合満足度では、「養殖業」で 0.76 点となり、前年度から上昇しました。一方で、「漁船漁業」は 0.29 点、「採介藻漁業」は 0.27 点となり、前年度から大きく減少しました（図 2）。

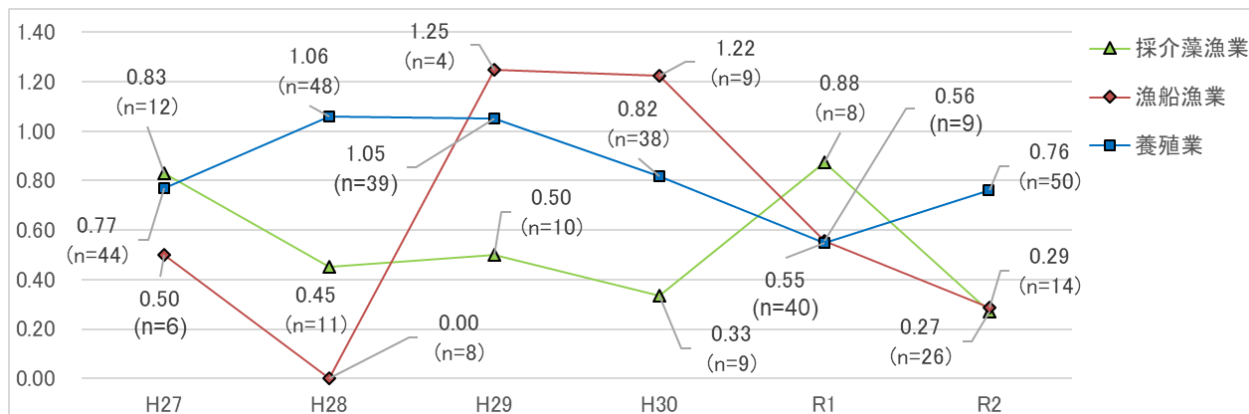


図 2 漁業種別の総合満足度の推移 (nは有効回答者数を表す。)

(3) 総合満足度の構造分析

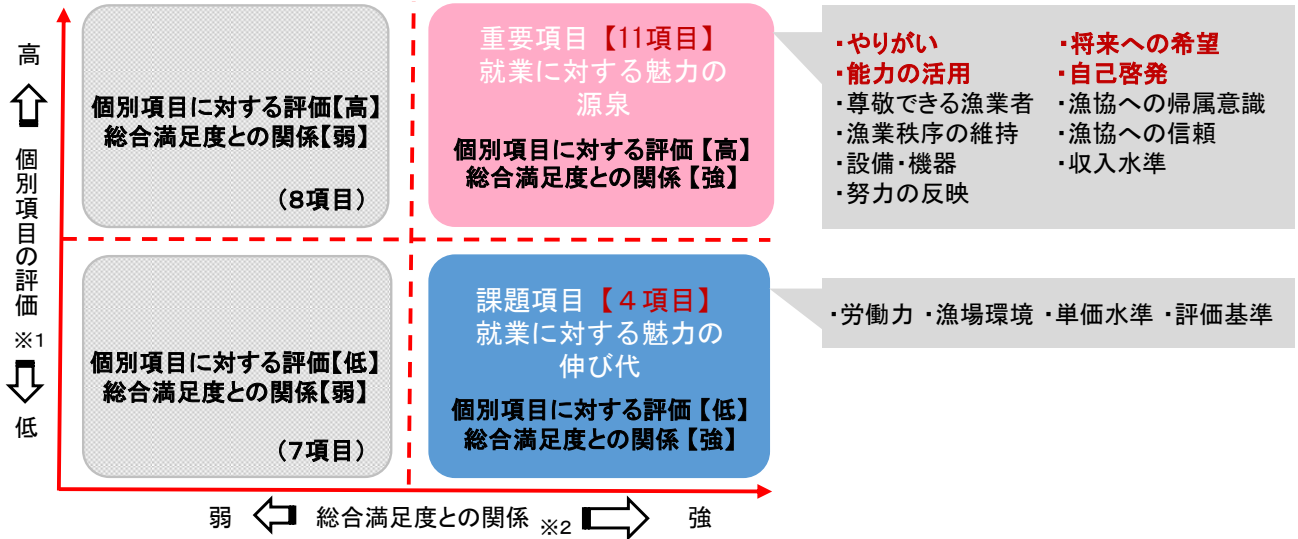
個別満足度の評価項目（30 項目）について、総合満足度との相関係数で評価し、総合満足度と関係が強く、かつ個別満足度の高い項目を『重要項目』、総合満足度と関係が強いものの、個別満足度の低い項目を『課題項目』と定義しました。

- ・『重要項目』… 就業に対する魅力の源泉
- ・『課題項目』… 就業に対する魅力の伸び代

ア 総合満足度の要因（全体）

令和 2 年度調査における『重要項目』は、「やりがい」、「将来への希望」、「能力の活用」、「自己啓発」、「尊敬できる漁業者」、「漁協への帰属意識」、「漁業秩序の維持」、「漁協への信頼」、「設備・機器」、「収入水準」及び「努力の反映」の 11 項目が分類されました。

一方で、『課題項目』は、「労働力」、「漁場環境」、「単価水準」及び「評価基準」の 4 項目が分類されました（図 3）。



※1 個別項目の評価の高低(各設問に対する「そう思う」、「まあそう思う」の構成比の合計)
 ※2 個別項目の評価と総合満足度との関係の強弱(単相関係数)

図3 総合満足度の要因

イ 総合満足度における重要項目と課題項目の推移

平成27年度から令和元年度までの過去5年間の調査で、「やりがい」、「将来への希望」、「能力の活用」、「成長期待」、「経営目標」及び「努力の反映」の6項目は『重要項目』に分類される頻度が高く、平成30年度調査報告書では「総合満足度を左右する特に重要な項目」に位置付けられており、このうち、「やりがい」、「将来への希望」、「能力の活用」及び「努力の反映」の4項目は、令和2年度調査においても、引き続き『重要項目』に分類されました(表1)。

一方で、「成長期待」や「経営目標」、令和元年度調査において『重要項目』とされていた「継続意欲」については、令和2年度調査では『重要項目』に分類されませんでした。

表1 重要項目と課題項目の推移

要因区分	項目	設問	調査年度					
			H27	H28	H29	H30	R1	R2
仕事	やりがい	漁業にやりがいを感じている。	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	将来への希望	漁業者としての自分の将来に希望を感じている。	■	◎	◎	■	◎	◎
	能力の活用	自分の能力が活かせる仕事だと思う。	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	継続意欲	体力と意欲が続く限り働き続けられる仕事だと思う。				◎	◎	
自己の成長	成長期待	仕事を通じて人として成長できると思う。	◎	◎		◎		
	自己啓発	自身の能力向上(試験研究、研修、講習会等)の機会に恵まれていると思う。			◎		◎	◎
経営目標	経営目標	自分には明確な経営目標がある。	◎		◎			
他の漁業者との関係	尊敬できる漁業者	地域に尊敬できる漁業者がいる。						◎
	漁協への帰属意識	所属する漁協の組合運営や経営方針、取組等(「地域再生営漁計画」等)に理解を示している。						◎
漁協との関係	漁業秩序の維持	地域の漁業者はルールを守って操業している。						◎
	漁協への信頼	必要ときに漁協に相談できる環境にあると思う。			◎			◎
	労働力	漁業生産のために十分な労働力が確保できている。						■
労働条件	設備・機器	漁業生産のために十分な設備・機器が整っている。						◎
	漁場環境	漁場の生産環境は良好である。						■
	単価水準	生産物の単価は妥当な水準だと思う。						■
	評価基準	生産物の評価基準や評価体系は明確だと思う。						■
収入	収入水準	現在の自分の収入は妥当な水準だと思う。	■			◎		◎
	努力の反映	自分の努力は収入に適切に反映されていると思う。	◎		◎	◎		◎

重要項目: ◎ 課題項目: ■

3 個別満足度の分析（令和2年度・漁業種別）

(1) 養殖業

要因区分の“他の漁業者との関係”、“地域住民や消費者との関係”、“漁協との関係”、“労働条件”を中心とした19項目で満足度が上昇していましたが、「漁場環境」、「単価水準」及び「収入水準」の3項目で満足度が低下しました（表2）。

(2) 漁船漁業

要因区分の“他の漁業者との関係”、“労働条件”を中心とした12項目で満足度が上昇しましたが、「能力の活用」、「経営目標」及び「漁業秩序の維持」などの14項目で満足度が低下していましたが（表2）。

(3) 採介藻漁業

「責任感」、「生産物への誇り」、「仕事量・労働時間」及び「評価基準」の4項目で満足度が上昇しましたが、「能力の活用」、「自己啓発」、「後継者」、「設備・機器」及び「漁場環境」などの14項目で満足度が低下していましたが（表2）。

表2 個別満足度評価表（漁業種別別）

要因区分	項目	漁業種								
		養殖業			漁船漁業			採介藻漁業		
		R1	R2	満足度	R1	R2	満足度	R1	R2	満足度
仕事	やりがい	1.58	1.52	→	1.78	1.64	↑	1.88	1.88	→
	将来への希望	2.18	2.10	→	2.44	2.36	→	2.25	2.46	↓
	責任感	1.75	1.62	↑	1.78	1.71	→	2.14	1.88	↑
	能力の活用	1.79	1.71	→	1.50	2.07	↓	1.50	2.04	↓
	生産物への誇り	1.65	1.50	↑	1.63	1.93	↓	1.75	1.46	↑
	継続意欲	1.60	1.46	↑	1.25	1.43	↓	1.63	1.62	→
自己の成長	成長期待	1.98	1.88	↑	1.67	1.71	→	2.00	2.12	↓
	自己啓発	2.25	2.18	→	2.00	2.21	↓	1.88	2.38	↓
経営目標	経営目標	2.33	2.12	↑	1.88	2.29	↓	2.63	2.64	→
	経営規模拡大	2.38	2.32	→	2.56	2.36	↑	2.75	2.77	→
	共同生産への興味	3.03	2.92	↑	2.67	2.50	↑	2.88	2.85	→
	後継者	2.82	2.86	→	2.63	3.00	↓	3.00	3.50	↓
他の漁業者との関係	尊敬できる漁業者	1.97	1.65	↑	2.33	1.64	↑	1.50	1.81	↓
	漁業者間の信頼	1.75	1.57	↑	2.44	1.71	↑	1.88	1.81	→
	漁業就業者支援	3.03	2.72	↑	3.00	2.64	↑	2.63	2.73	↓
地域住民や消費者との関係	地域とのつながり	2.05	1.74	↑	2.11	2.00	↑	1.25	1.69	↓
	消費者とのつながり	2.78	2.64	↑	2.78	3.00	↓	2.50	2.81	↓
漁協との関係	漁協への帰属意識	2.35	2.16	↑	2.44	2.71	↓	1.75	2.04	↓
	漁業秩序の維持	2.08	1.74	↑	1.78	2.21	↓	1.25	1.73	↓
	漁業権行使	2.10	1.76	↑	2.67	2.00	↑	2.00	1.92	→
	漁協への信頼	1.98	1.74	↑	2.44	2.07	↑	1.75	1.77	→
	役割の発揮	2.55	2.35	↑	2.33	2.57	↓	1.75	2.12	↓
労働条件	仕事量・労働時間	2.53	2.24	↑	2.67	2.21	↑	2.13	1.88	↑
	労働力	2.77	2.54	↑	2.44	2.29	↑	2.38	2.38	→
	設備・機器	2.48	2.16	↑	2.33	2.50	↓	1.88	2.46	↓
	漁場環境	2.18	2.50	↓	2.67	2.43	↑	1.88	2.38	↓
収入	単価水準	2.23	2.46	↓	2.67	2.79	↓	2.00	2.08	→
	評価基準	2.48	2.52	→	2.67	2.86	↓	2.43	2.23	↑
	収入水準	2.20	2.30	↓	2.33	2.43	↓	2.29	2.23	→
	努力の反映	2.10	2.10	→	2.11	2.14	→	2.00	2.00	→

※満足度の評価

「そう思う:1」「まあそう思う:2」「あまりそう思わない:3」「そう思わない:4」の4段階で回答を得ており、項目平均の数値が小さいほど満足度の高さを示す。前年比0.1ポイント以上の変動で満足度の「上昇↑」「低下↓」を判断。

4 考察

平成 27 年度の調査開始以降、今回で 6 回目となる調査を通じて、総合満足度が高い漁業者ほど、「やりがい」や「将来の希望」を感じており、自らの能力が活かせる仕事（「能力の活用」）として、自らの努力が収入に適切に反映されていること（「努力の反映」）に満足していることが示唆されました。

一方で、今回の調査では、「労働力」、「漁場環境」、「単価水準」及び「評価基準」の評価が低下し、調査開始以降、初めて『課題項目』に分類されるとともに、漁業種別で見た場合、前回の調査と比べ、特に、漁船漁業及び採介藻漁業で満足度の大きな低下がみられました。

漁業種別に個別満足度を分析した場合、養殖業では「漁場環境」、「単価水準」及び「収入水準」の 3 項目、漁船漁業では「能力の活用」、「経営目標」及び「漁業秩序の維持」などの 14 項目、採介藻漁業では「能力の活用」、「自己啓発」、「後継者」、「設備・機器」及び「漁場環境」などの 14 項目で満足度の低下がみられました。

満足度が低下した要因として、近年の海洋環境の変化に伴い、養殖業では、ワカメの生産不調やホタテガイの貝毒発生、漁船漁業ではサンマやスルメイカ、イサダ等の漁獲量の減少、採介藻漁業では磯焼けの進行に伴うアワビ、ウニ等の漁獲量の減少が続いていることに加え、令和 2 年度の特殊事情として、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う外食需要の変化による県産水産物の価格下落が挙げられ、いずれの漁業種類においても、漁業経営の厳しさが増している状況にあり、特に、漁船漁業及び採介藻漁業が、上述の影響をより強く受けているものと考えられます。

Ⅲ まとめ（今後の対応）

漁業を取り巻く自然環境や社会情勢が悪化している中であって、「なりわい」としての漁業の魅力の向上を図るためには、これまでの調査で重要項目とされた「やりがい」や「将来への希望」、「能力の活用」、「努力の反映」などを引き続き重視しながら、課題項目とされた「労働力」や「漁場環境」、「単価水準」、「評価基準」の視点からの改善の取組を戦略的に推進していく必要があります。

このため、県では、令和3年3月に策定した「岩手県漁業担い手育成ビジョン（令和2～4年度）」に基づき、市町村や漁協、漁業関係団体と連携し、次代を担う意欲ある新規漁業就業者の確保・育成と地域漁業の核となる強い経営体の育成を推進しているところです。

具体的には、養殖業では、それぞれの漁場の利用状況を「見える化」しながら、省力化機器やワカメ大型人工種苗等の新技術の導入、サケ・マス類等の新規養殖対象種の導入などの取組を推進しています。

漁船漁業では、近年、資源量が増加しているマイワシを対象とする試験操業や、国のTAC制度に基づいた資源管理などの取組を推進しています。

採介藻漁業では、磯焼けの改善に向けたコンブ等の海中林の造成や、漁場に過密に生息し身入りが悪く経済的価値がない「やせウニ」の除去とともに、「やせウニ」を特定の漁場に移植・蓄養して身入りの向上を図るなどの付加価値向上の取組を推進しています。

今後も、引き続きこれらの取組を積極的に推進することにより、漁業者の満足度の向上とともに、「なりわい」としての漁業の魅力の向上を図っていきます。

【トピック】県内の磯焼け対策

- ・県では、「黄金のウニ収益力向上推進事業」を県内4漁協（綾里・新おおつち・久慈市・種市）で実施し、ウニの生息密度の適正化による磯焼け対策を進めるとともに、「やせウニ」を有効活用した新しい蓄養・出荷モデルを構築することで、漁業者の所得向上に取り組んでいます。
- ・また、「水産多面的機能発揮対策事業」により、県内3市町（陸前高田市・大船渡市・大槌町）の活動組織が実施する藻場の維持・保全と磯焼け対策の取組を支援しています。



黄金のウニ収益力向上推進事業により
身入りが向上したウニ



水産多面的機能発揮事業における
ウニ移植作業

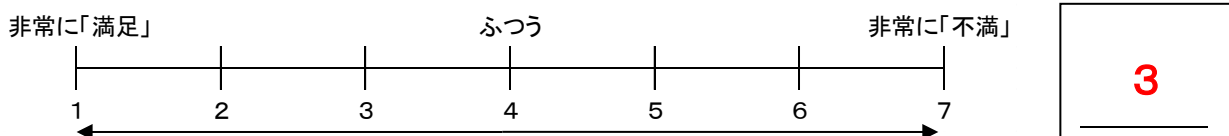
(別紙) 令和2年度 漁業担い手満足度調査【調査票】

本県の漁業就業者は、後継者不足と相まって高齢化と減少が続いており、新規就業者の確保が喫緊の課題です。本調査は、現場で活躍する漁業者の皆様を対象に、日々の仕事に対する満足度やその源泉となる要因を把握することで、本県における漁業就業の魅力として誇れるものや不足しているものを共有し、漁家子弟・未経験者の漁業就業への動機付けや就業環境の改善を図るための参考とするものです。本調査の趣旨を御理解いただき、御協力お願いいたします。

※ 本調査で得た情報については、目的以外には使用しません。
また、集計結果のみを使用するため、個人情報がそのまま外部に漏れることはありません。

◆ 漁業に関するさまざまな項目について、あなたの満足度をお伺いします。

問1. あなたは総合的に考えて、現在の漁業の仕事や環境にどの程度満足していますか。7段階評価（1～7、小さいほど「満足」）でご回答ください。



問2. 次の各項目について、どのように感じていますか。あてはまる番号に○印をつけてください。

	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
(1) 漁業にやりがいを感じている。	1	2	3	4
(2) 漁業者としての自分の将来に希望を感じている。	1	2	3	4
(3) 水産物の食糧供給を担う責任ある仕事だと思う。	1	2	3	4
(4) 自分の能力が活かせる仕事だと思う。	1	2	3	4
(5) 自分の生産物や地域のブランドに誇りをもっている。	1	2	3	4
(6) 体力と意欲が続く限り働き続けられる仕事だと思う。	1	2	3	4
(7) 仕事を通じて人として成長できると思う。	1	2	3	4
(8) 自身の能力向上（試験研究、研修、講習会等）の機会に恵まれていると思う。	1	2	3	4
(9) 自分には明確な経営目標がある。	1	2	3	4
(10) 現在の漁業経営の規模を拡大したい。	1	2	3	4
(11) 他の漁業者等との共同生産に興味がある。	1	2	3	4
(12) 後継者、又は後継者として見込んでいる者がいる。	1	2	3	4
(13) 地域に尊敬できる漁業者がいる。	1	2	3	4
(14) 必要なときに他の漁業者に相談できる環境にある。	1	2	3	4
(15) 地域には、漁家子弟や未経験者の漁業就業を支援する環境が整っていると思う。	1	2	3	4
(16) 近隣住民とのつきあいが多く、地域とのつながりが深い。	1	2	3	4
(17) 消費者と対話する機会を積極的に確保している。	1	2	3	4
(18) 所属する漁協の組織運営や経営方針、取組等（「地域再生営漁計画」等）に理解を示している。	1	2	3	4
(19) 地域の漁業者はルールを守って操業している。	1	2	3	4

【裏面に続きます】

	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
(20) 十分な <u>漁業権の行使機会</u> に恵まれている。	1	2	3	4
(21) 必要なときに <u>漁協に相談</u> できる環境にあると思う。	1	2	3	4
(22) 地域には年齢、経験、性別に応じて、 <u>それぞれの役割を発揮</u> できる漁業生産環境が整っている。	1	2	3	4
(23) 現在の自分の <u>仕事量や労働時間・休暇のバランス</u> は 適切な水準だと思う。	1	2	3	4
(24) 漁業生産のために十分な <u>労働力</u> が確保できている。	1	2	3	4
(25) 漁業生産のために十分な <u>設備・機器</u> が整っている。	1	2	3	4
(26) <u>漁場の生産環境</u> は良好である。	1	2	3	4
(27) <u>生産物の単価</u> は適切な水準だと思う。	1	2	3	4
(28) <u>生産物の評価基準や評価体系</u> は明確だと思う。	1	2	3	4
(29) 現在の自分の <u>収入</u> は適切な水準だと思う。	1	2	3	4
(30) 自分の <u>努力</u> は収入に適切に反映されていると思う。	1	2	3	4

◆ あなたご自身のことについてお伺いします。

問3. 各項目について、あてはまる番号（複数ある場合は主なもの1つ）に○印をつけてください。

① 所 属 1. 県北 2. 宮古 3. 釜石 4. 大船渡

② 属 性 1. 指導漁業士 2. 青年漁業士

③ 性 別 1. 男 2. 女

④ 年 齢 1. 20~29歳 2. 30~39歳 3. 40~49歳 4. 50~59歳 5. 60歳以上

⑤ 漁業就業年数 1. 10年未満 2. 10~20年未満 3. 20~30年未満 4. 30~40年未満 5. 40年以上

※家族従事者（手伝い）としての就業期間も含めた通算期間

⑥ 令和元年度の年間収入 1. 200万円未満 2. 200~400万円未満 3. 400~600万円未満

※漁業外収入を含む 4. 600~800万円未満 5. 800~1,000万円未満 6. 1,000万円以上

⑦ 主な漁業種類 1. 漁船漁業 2. 養殖業 3. 採介藻漁業 4. その他

問4. 令和元年度における主な生産物・漁獲物について、販売金額が多い順にご記入願います。

（回答欄）

① ワカメ ② カキ ③ ホタテ

◆ 昨年度に開講した「いわて水産アカデミー」*や県の新規漁業就業者の確保・育成施策に関して、御提案や御意見がありましたら、ご記入願います。

* 漁業就業希望者の育成・地域への定着を目的とし、漁業関係団体、県団体及び各市町村の育成協議会で連携して設立された研修機関。

設問は以上です。御協力ありがとうございました。

若手漁業者に対する調査票【回答例】

令和2年8月
岩手県農林水産部
水産振興課

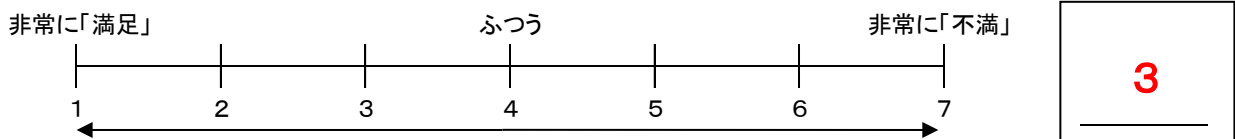
(別紙) 令和2年度 漁業担い手満足度調査【調査票】

本県の漁業就業者は、後継者不足と相まって高齢化と減少が続いており、新規就業者の確保が喫緊の課題です。本調査は、現場で活躍する漁業者の皆様を対象に、日々の仕事に対する満足度やその源泉となる要因を把握することで、本県における漁業就業の魅力として誇れるものや不足しているものを共有し、漁家子弟・未経験者の漁業就業への動機付けや就業環境の改善を図るための参考とするものです。本調査の趣旨を御理解いただき、御協力お願いいたします。

※ 本調査で得た情報については、目的以外には使用しません。
また、集計結果のみを使用するため、個人情報とそのまま外部に漏れることはありません。

◆ 漁業に関するさまざまな項目について、あなたの満足度をお伺いします。

問1. あなたは総合的に考えて、現在の漁業の仕事や環境にどの程度満足していますか。7段階評価（1～7、小さいほど「満足」）でご回答ください。



問2. 次の各項目について、どのように感じていますか。あてはまる番号に○印をつけてください。

	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
(1) 漁業にやりがいを感じている。	1	2	3	4
(2) 漁業者としての自分の将来に希望を感じている。	1	2	3	4
(3) 水産物の食糧供給を担う責任ある仕事だと思う。	1	2	3	4
(4) 自分の能力が活かせる仕事だと思う。	1	2	3	4
(5) 自分の生産物や地域のブランドに誇りをもっている。	1	2	3	4
(6) 体力と意欲が続く限り働き続けられる仕事だと思う。	1	2	3	4
(7) 仕事を通じて人として成長できると思う。	1	2	3	4
(8) 自身の能力向上（試験研究、研修、講習会等）の機会に恵まれていると思う。	1	2	3	4
(9) 自分には明確な経営目標がある。	1	2	3	4
(10) 現在の漁業経営の規模を拡大したい。	1	2	3	4
(11) 他の漁業者等との共同生産に興味がある。	1	2	3	4
(12) 後継者、又は後継者として見込んでいる者がいる。	1	2	3	4
(13) 地域に尊敬できる漁業者がいる。	1	2	3	4
(14) 必要なときに他の漁業者に相談できる環境にある。	1	2	3	4
(15) 地域には、漁家子弟や未経験者の漁業就業を支援する環境が整っていると思う。	1	2	3	4
(16) 近隣住民とのつきあいが多く、地域とのつながりが深い。	1	2	3	4
(17) 消費者と対話する機会を積極的に確保している。	1	2	3	4
(18) 所属する漁協の組織運営や経営方針、取組等（「地域再生営漁計画」等）に理解を示している。	1	2	3	4
(19) 地域の漁業者はルールを守って操業している。	1	2	3	4

【裏面に続きます】

	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
(20) 十分な <u>漁業権の行使機会</u> に恵まれている。	1	2	3	4
(21) 必要なときに <u>漁協に相談</u> できる環境にあると思う。	1	2	3	4
(22) 地域には年齢、経験、性別に応じて、 <u>それぞれの役割を発揮</u> できる漁業生産環境が整っている。	1	2	3	4
(23) 現在の自分の <u>仕事量や労働時間・休暇のバランス</u> は 適切な水準だと思う。	1	2	3	4
(24) 漁業生産のために十分な <u>労働力</u> が確保できている。	1	2	3	4
(25) 漁業生産のために十分な <u>設備・機器</u> が整っている。	1	2	3	4
(26) <u>漁場の生産環境</u> は良好である。	1	2	3	4
(27) <u>生産物の単価</u> は適切な水準だと思う。	1	2	3	4
(28) <u>生産物の評価基準や評価体系</u> は明確だと思う。	1	2	3	4
(29) 現在の自分の <u>収入</u> は適切な水準だと思う。	1	2	3	4
(30) 自分の <u>努力</u> は収入に適切に反映されていると思う。	1	2	3	4

◆ あなたご自身のことについてお伺いします。

問3. 各項目について、あてはまる番号（複数ある場合は主なもの1つ）に○印をつけてください。

① 所 属 1. 県北 2. 宮古 ③ 釜石 4. 大船渡

② 性 別 ① 男 2. 女

③ 年 齢 1. 20～29歳 2. 30～39歳 3. 40～49歳 ④ 50～59歳 5. 60歳以上

※家族従事者（手伝い）としての就業期間も含めた通算期間

④ 令和元年度の年間収入 1. 200万円未満 2. 200～400万円未満 3. 400～600万円未満

※漁業外収入を含む 4. 600～800万円未満 ⑤ 800～1,000万円未満 6. 1,000万円以上

⑤ 主な漁業種類 1. 漁船漁業 ② 養殖業 3. 採介藻漁業 4. その他

問4. 令和元年度における主な生産物・漁獲物について、販売金額が多い順にご記入願います。

（回答欄）

① **ワカメ** ② **カキ** ③ **ホタテ**

◆ 昨年度に開講した「いわて水産アカデミー」*や県の新規漁業就業者の確保・育成施策に関して、御提案や御意見がありましたら、ご記入願います。

* 漁業就業希望者の育成・地域への定着を目的とし、漁業関係団体、県団体及び各市町村の育成協議会で連携して設立された研修機関。

【次頁に続きます】

◆ あなたご自身の漁業就業についてお伺いします。

問5. 漁業就業に関する各項目について、記入及びあてはまるものに○印をつけてください。

① 漁業就業年数 (5) 年

② 就業の経緯

1. 親が漁業を経営していたので事業を継承した 2. 新規に漁業経営を開始した

3. 親の漁業経営を手伝っている 4. その他 ()

③ 漁業就業当時、困難であったこと (複数選択可)

1. 運営資金の確保 2. 技術の習得 3. 資材の確保 4. 生活拠点の確保

5. 地域とのコミュニケーション 6. 漁業者とのコミュニケーション 7. 労働力の確保

8. その他 ()

④ 現在、漁業就業を続けるうえで困っていること (複数選択可)

1. 運営資金の確保 2. 技術の習得 3. 資材の確保 4. 生活拠点の確保

5. 地域とのコミュニケーション 6. 漁業者とのコミュニケーション 7. 労働力の確保

8. その他 ()

⑤ これまでに活用した支援制度 (複数選択可)

1. 漁業近代化資金 2. 沿岸漁業改善資金 3. 長期研修支援事業

4. 岩手県漁業担い手育成基金事業 5. 運転資金等の一般融資 ()

6. 行政の補助 () 7. 民間支援 ()

8. その他 ()

⑥ 漁業就業 (着業も含む) にあたり、必要な支援についてご記入願います。

(例. 漁船を入手するための支援)

ワカメ塩蔵器など、機器設備を整備するための支援がほしい。

設問は以上です。御協力ありがとうございました。

岩手県漁業担い手育成ビジョン（令和2～4年度）の概要

1 ビジョンの位置付け

○ビジョン策定の目的

・県、市町村、漁協、漁業関係団体などが一体となり、漁業担い手の確保・育成に向けた将来展望(ビジョン)を共有し、それぞれの主体性を発揮して取り組むことで、意欲と能力のある担い手を確保・育成し、なわいとしてその魅力に満ちあふれた地域漁業の構築と、水産業を核とした沿岸地域全体の発展を図る。

・県ビジョン(平成28～31年度)の取組を引き継ぎ、市町村、漁業関係者と連携して、地域漁業の担い手を確保・育成するための行動指針として、本ビジョンを策定。

○「いわて県民計画(2019～2028)」との関係

・いわて県民計画の「仕事・収入の分野に掲げる「意欲と能力のある経営体」を育成していくための、水産業分野における具体的な取組として整理。

○現ビジョンの取組成果(各指標の実施)

指標名	単位	意欲新平均	現状値	H28	H29	H30	RI
市町村単位の新規漁業就業者育成協議会の設立件数	件	(+26)	(8)	(10)	(12)	(12)	(12)
新規漁業就業者数	人	(H13～22)	(+26)	(50)	(55)	(60)	(65)
共同生産体制の整備数	漁協(延べ)	49.5	40	57	55	47	45
中核的漁業経営体数*	経営体(H19～21)	(+26)	(390)	(445)	(500)	(505)	(505)
漁業担い手満足度	点	485.7	283	419	429	450	418
岩手県調べ	※中核的漁業経営体、販売額1,000万円以上の漁業経営体	—	0.71	0.83	0.86	0.79	0.60

・現ビジョンの取組を総括し、残された課題について、本県漁業の状況の変化を踏まえ、新たな視点を加え、重点的に取り組む。

2 本県の漁業担い手を取り巻く状況と課題

○漁業就業者の高齢化

・平成30年の漁業就業者数における65歳以上の割合は44.7%と、平成25年(35.6%)と比べ増加しており、次代を担う就業者の確保が急務。

○漁家子弟以外の新規漁業就業者の増加

・新規漁業就業者のうち、漁家子弟以外の漁業未経験者は増加傾向にあり、安心して就業できる支援体制が必要。

就業者確保の課題

○社会経済状況の変化

・近年の海洋環境の変化等による主要魚種の漁獲量減少や、新型コロナウイルス感染症の拡大による水産物の消費低迷など、社会経済情勢の変化に対応できる強い漁業経営体の育成が急務。

○ICT等の技術の発達

・情報ネットワークを活用した「スマート水産業」の実現により、収益性の高い漁業へと転換していくことが必要。

経営体育成の課題

3 ビジョンの基本目標

現ビジョンの取組の成果を踏まえ、本県漁業を持続的に発展させるため、次の視点で漁業担い手の確保・育成を進める。

①本県漁業の魅力を広げ発信することで、漁家子弟に限らず多様な人材を地域の内外から新規漁業就業者として受け入れ、地域が一体となって次代を担う意欲ある漁業者を確保・育成していくこと。

②地球温暖化による海洋環境の変化、新型コロナウイルス感染症などによる社会経済情勢等の変化、ICT技術の進歩、労働環境の変化など、様々な変化に対応できる、地域漁業の核となる強い漁業経営体を育成していくこと。

4 ビジョンの期間と取組目標

○ビジョンの期間
・いわて県民計画(2019～2028)第1期アクションプランと連動させ、令和2年度から4年度までの3年間に設定。

○ビジョンの取組目標

①次代を担う意欲ある漁業就業者の確保・育成

・いわて水産アカデミーの修了生数
・新規漁業就業者数

②地域漁業の核となる強い経営体の育成
・中核的漁業経営体数

項目	目標値				備考
	現状値	R1	R2	R3	
いわて水産アカデミーの修了生数(人)	7	20	30	40	目標値はR1からの累計
新規漁業就業者数(人)	45	70	70	70	
中核的漁業経営体数(経営体)	418	510	515	520	

○漁業の満足度評価

・漁業上や新規漁業就業者等を対象とした漁業担い手満足度調査により、就業者の満足度を継続的に把握し、施策へ反映。

6 推進体制と進捗管理

○ビジョンの推進体制

・沿岸4地区[※]に設置された「漁業担い手対策推進協議会」で方向性や情報共有を推進し、市町村単位の「新規漁業就業者育成協議会」において、具体的な地域毎の取組を推進。

・水産アカデミー、担い手育成基金、市町村単位の「新規漁業就業者育成協議会」及び県が連携し、県内外への情報発信や新規就業者の発掘等を実施。

○ビジョンの進捗管理

・施策の成果について、沿岸4地区[※]の「漁業担い手対策推進協議会」や市町村単位の「新規漁業就業者育成協議会」に報告し、これらの協議会からの意見・提言等を踏まえ、必要対策の追加や見直しを行なうなど、PDCAサイクルによる進捗管理を実施。

・漁業担い手満足度調査で得られた結果を分析・評価し、次年度以降の施策に反映。

5 漁業担い手の確保・育成に向けた具体的な取組

取組① 漁業就業情報の発信

・漁業就業支援フェア等の就業イベントへ積極的に出展するとともに、各種ソーシャルネットワークサービス(SNS)等を活用し、広く県内外に向けて、地域漁業の魅力と就業情報を発信。

取組② いわて水産アカデミーを核とした人材育成

・次代を担う意欲ある漁業就業者の研修機関である水産アカデミーと、漁業関係団体、市町村単位の「新規漁業就業者育成協議会」が連携し、研修から就業、定着まで切れ目のない人材育成を推進。

取組③ 青年雇用環境の整備

・漁業経営体の法人化や協業体の育成、漁協自営による養殖、他業種との労働力のシェアなど、雇用環境で同業就業の受け皿となる経営体の育成や、雇用労働環境の確保に向けた関係者との連携を推進。

取組④ 新規就業者の定着と将来の独立支援

・県内が実施する就業奨励金や住居費補助などの支援制度、国の長期研修制度などを効果的に組み合わせ、関係機関・団体が一体となって、就業と定着を支援。
・漁業をやめる方の中古資材を無償又は低償で受け取るなど、新規就業者の独立を地域全体で支えていく仕組みづくり。

取組① 中核的漁業経営体の育成

・経営規模の拡大や生産の効率化に向けて、養殖漁場利用の「見える化」や、ICTを活用した「スマート水産業」の技術普及、生産の効率化や省力化に必要な機器等の導入を推進。

・経営の効率化に向けて、水産アカデミーの公開講座を拡充するほか、水産業普及指導員による技術と経営の指導により、漁業経営体の経営能力向上や法人化への移行を推進。

・新たな漁業収入の確保に向けて、試験研究機関や漁協青年部等による新規養殖試験など、収益性の高い漁業や経営の改善に取り組む組織の活動を活性化。

取組② 漁村ビジネスマンの育成

・コロナ禍の新しい生活様式に対応した、消費者への直接販売などを推進。
・漁業の魅力を伝えるためのブルー・ツーリズム、遊漁船業、遊覧船、生産者直売所、食堂など、漁業のサイドビジネスとなる経済活動の取組を推進。

※沿岸4地区:久慈、古川、釜石、大槌



出漁の風景

令和2年度漁業担い手満足度調査報告書

令和3年12月

岩手県農林水産部水産振興課

〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10-1

電話：019-629-5806 FAX：019-629-5824